

僕の生活と税金

茨城県立下館第一高等学校附属中学校

一年 谷田 優太

「税金」この年齢になるとよく聞く言葉になった。お買い物をするときも消費税というものがある。税金がある事で僕の生活はどうなったのか改めて考えたい。

遡ること僕が小学一年生の頃、コンビニへお茶を買いに行った。まだ僕には税金についての知識が無かった。飲み物棚に書いてある税抜き価格のお金を用意しお会計所に向かった。しかし、レジの機械に表示された金額は思っていた値段と異なった。この頃は税金がない方がいいというのが正直な気持ちだった。低学年から中学年、高学年そして今の中学生まで払い続けると慣れてしまった。

ある日、妹と母から頼まれたお使いに行った。税金が加算されると細かいお金が必要になった。お財布から細かいお金を出し合ったのを覚えている。その時に気になった。この税金は何に使われるのだろうか。また、税金が無かったらどんな生活になっているのか。

小学五年生の時に父は新しい家を建てた。ちらっと見えた見積もり表にはお家の値段と見知らぬ文字だった。僕は見知らぬ文字に興味を持ち始めた。父に思い切って聞いてみると固定資産税という言葉が出てきた。僕は驚いた。家を建てているだけでも税金がかかる

ということに。ますます税金が何に使われているのか気になった。

最近、新型コロナウイルスで一人一人に給付金が給付された。僕の国語の先生は、こう言った。「給付金は税金だ。今まで払ったものが返ってきたんだよ。」僕は思った。税金とは国民のために使うお金なのかと。

祖母に税金について聞くと、「税金に支えられているよ。」と言っていた。例えばどんな時に支えられているのと聞くと祖母はこう答えた。「高齢者は医療費を九割返金してくれる制度がある。」やはり、国民のために税金は使われていることが分かった。

最初は税金を迷惑だと思っていたけど、税金は国民のために使われている事が分かって何か安心した。人という漢字は人と人が支えあって出来ているというのが本当だと思う。税金というものをつくった人はどんな思いで作ったのか知りたいと思った。この国、日本には欠かせない存在となった。税金の無い生活は考えられない。税金が無くなった時のイメージ映像を見た時は税金があつて良かったと思つた。道路が管理されない、救急車が有料、交番で利用費がかかるなど、それを想像するとなおさら税金という強い味方と生活していく事を固く誓つた。